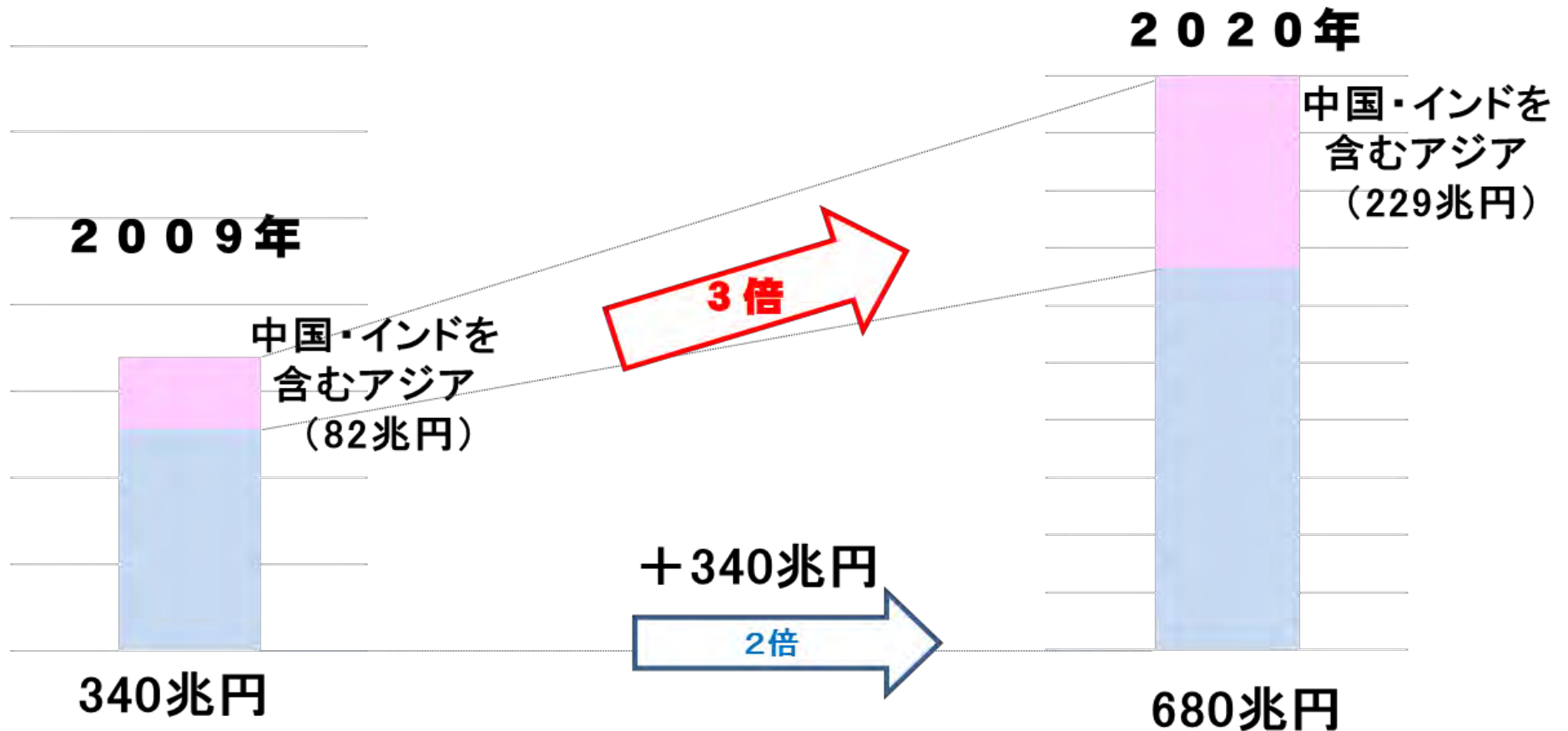


重要課題② 需要フロンティアの拡大

輸出拡大、食文化・食産業のグローバル展開

世界の食の市場規模(加工+外食)

- 現在340兆円の世界の食の市場規模は、2020年には680兆円に倍増。
- 特に、中国・インドを含むアジア全体で考えると、市場規模は、2009年の82兆円に比べ、229兆円へと約3倍増。



資料:ATカーニー社の推計を基に農林水産省作成

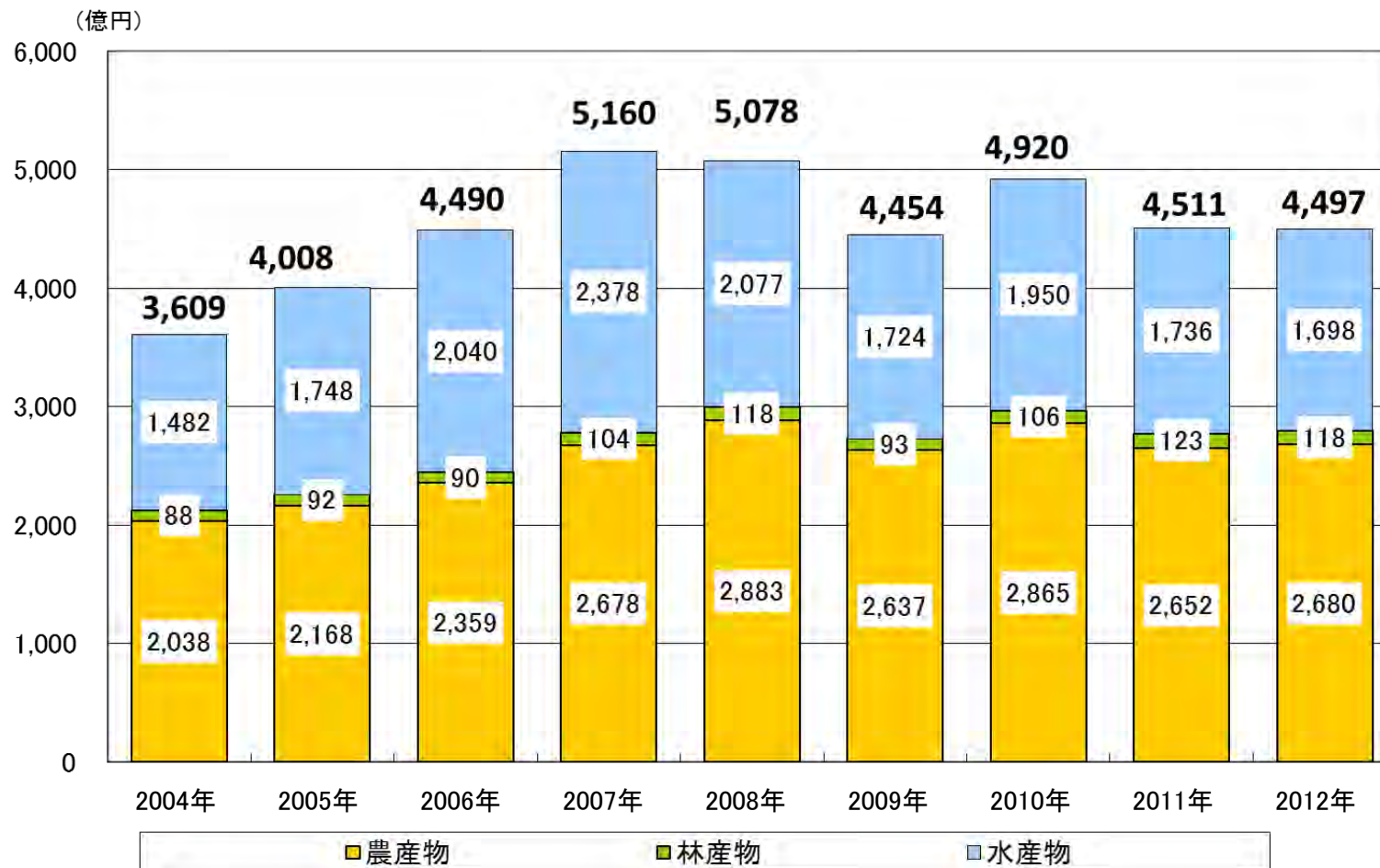
注1:2009年為替平均値である1ドル94.6円で換算

注2:中国・インドを含むアジアとは、中国、香港、韓国、インド、ASEAN諸国の合計

注3:市場規模に日本は含まない(日本は、58兆円(2009年)から67兆円(2020年)へと約1.2倍に拡大)

○ 最近の輸出は、景気の影響を受けつつも増加傾向を示してきたが、円高や原発事故の影響等により大きな落ち込み。

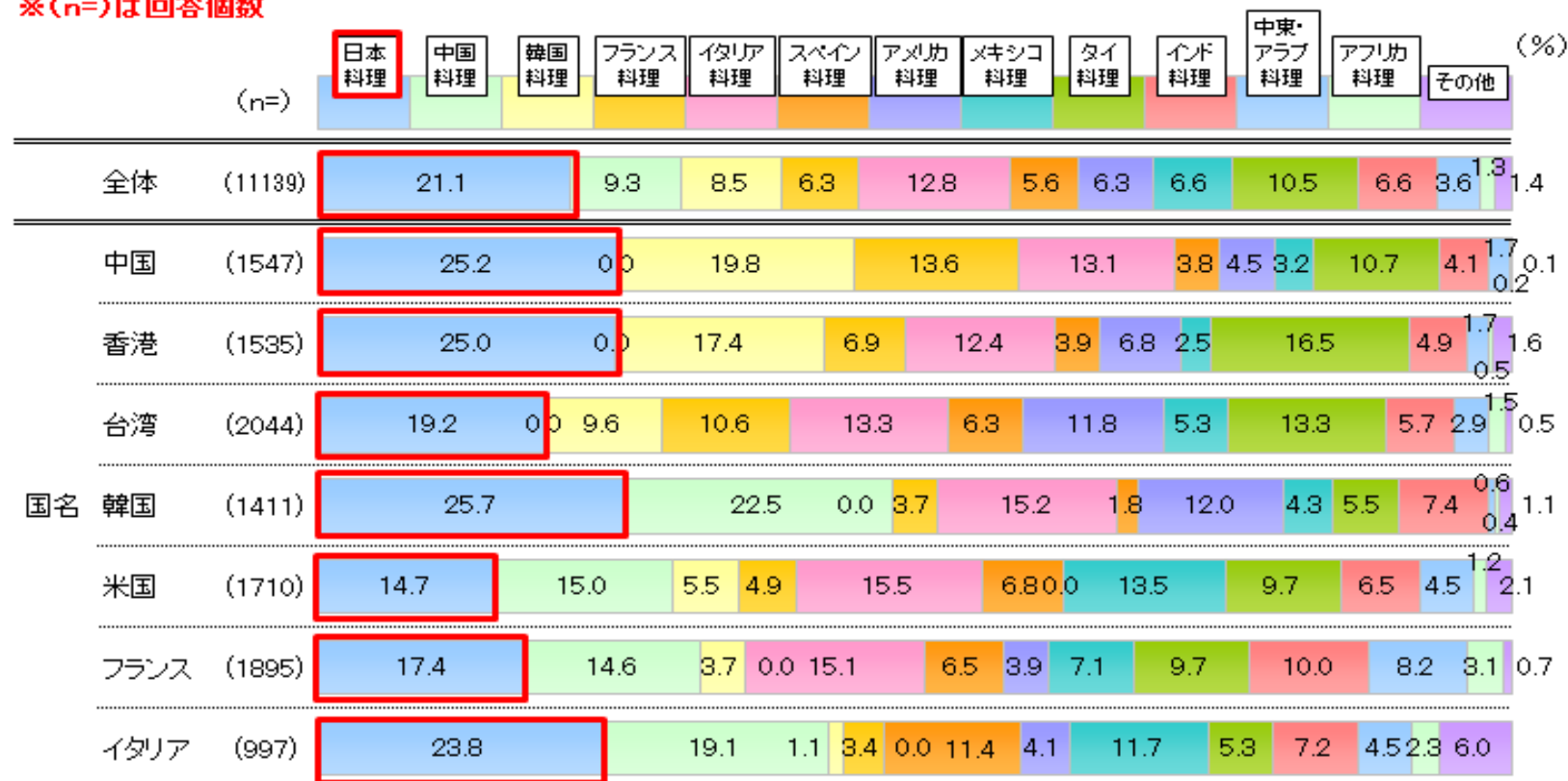
○我が国の農林水産物・食品の輸出額



○ 「食」の人气が1番高いのは日本食だが、輸出に結びついていない(2011年)。

質問:「好きな料理かつ外食で食べる外国料理はどれですか」

※(n=)は回答個数



(出典)ジェトロ「日本食品に対する海外消費者調査(中国、香港、台湾、韓国、米国、フランス、イタリア)」2013年3月5日公表
(※1)(n=)は回答個数、実施国の料理は選択肢から除外

農林水産物・食品の輸出倍增戦略

【現状等】

○ 日本の農林水産物・食品の輸出額は、約4500億円(2012年)。

日本の食の海外展開「F・B・I」戦略

Made From Japan : 日本食材が世界を席巻
※世界中のシェフが日本のゆずをメニュー化

Made By Japan :
日本の「食文化・食産業」の海外展開

連携

Made In Japan : 国別・品目別輸出戦略を策定し、日本食を特徴づけるコンテンツの輸出拡大

目標

農林水産物・食品の
輸出額を
2020年までに
1兆円へ拡大

国別・品目別戦略(案)のイメージ

2012年	特徴的戦略	重点品目	重点国・地域	2020年
水産物 1,700億円	ブランディング、迅速な衛生証明書発給体制の構築	ブリ、サバ、ホタテ、ファ ストフィッシュ、サケ	東南アジア、EU、 アフリカ等	3,500億円
加工食品 1,300億円	Made byの取組に伴う日本からの原料調達の増加、「出せる市場に出す」から「出したい市場に出す」へ	みそ、しょうゆ、菓子類、清 涼飲料水、健康食品、 レトルト食品	EU、ロシア、 シンガポール、タイ、 ベトナム、インド等	5,000億円
コメ、コメ加工品 130億円	現地での精米や炊飯ロボットと組み合わせた外食販売、日本酒等コメ加工品の重点化	米、米菓、パックご飯、 日本酒	香港、シンガポール、豪州、 EU、米国、インド、ブラジル等	600億円
青果物 80億円	台湾や東南アジア等新規市場の戦略的な開拓、周年供給の確立	りんご、柑橘類、いちご、 ながいも、かんしょ	台湾、東南アジア(タイ、 インドネシア、ベトナム等)	250億円
牛肉 50億円	大マーケットの欧米での重点プロモーション、多様な部位の販売促進、食文化と一体のプロモーション	米国、EU、香港、シンガポール (衛生協議中:ロシア、台湾、中国等)		250億円

※ この戦略案は、今後、地域ブロックごとの意見交換等の場で、現場からの意見を吸い上げた上で、ブラッシュアップを行う。

重要課題③ バリューチェーンの構築等

異業種との連携、新品種・新技術の開発・普及、知財の活用等

6次産業化、異業種連携等による付加価値増大

【現状等】

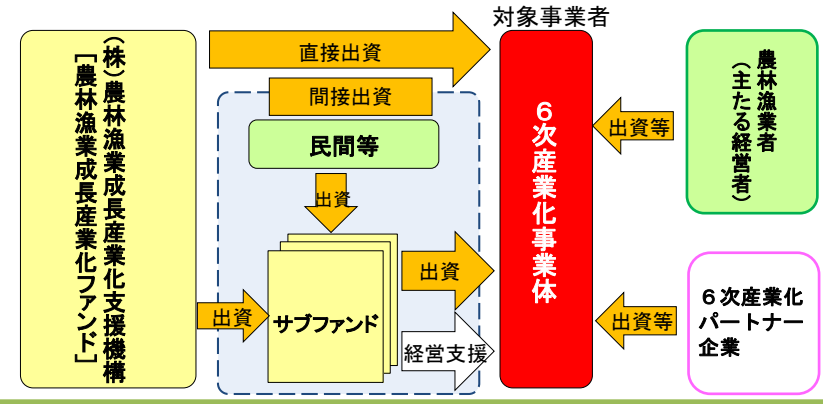
- 農業と食料関連産業の生産額は約95兆円(2009年度)にのぼり、全産業の11%。
- 6次産業の市場規模は、現在、1兆円。

6次産業化

- 農林漁業成長産業化ファンドの
 本格展開
 (いわば「儲かる農業開拓ファンド」)

※ 現在までに20のサブファンド
 (総額490.2億円)の設立を認可)

農林漁業成長産業化ファンドの仕組み



目標

6次産業の市場規模を
 10年間で10兆円に拡大

医食農連携など多様な業種との連携強化

- 健康に着目した農林水産物・食品の市場
 拡大による**健康長寿社会**の実現
 - ・ 薬用作物国産化のニーズに応えた産地
 形成
 - ・ 機能性の高い食品・農林水産物の市場
 環境整備
 - ・ 社会福祉法人等の農地を活用した研修
 ・授産の促進
- 福祉、教育、観光等との連携を通じた**地域の
 活力の創造**

「強み」のある農畜産物の創出

- 我が国の農業の強みを活かすための**新品種
 ・新技術の開発・保護・普及方針**の策定等に
 取り組む(新品種の保護と商標権の保護
 の組み合わせ。)



福岡県 ラー麦
 (ラーメン用小麦)



山形県 つや姫
 (コメ)

農林漁業・農山漁村から日本を元気に

- 農山漁村は、農林水産物をはじめバイオマス、土地、水など様々な地域資源を豊富に有し、今後の経済成長へ向けた希少資源として、わが国の最大の強みのひとつ。
- しかし、1次産業と2次・3次産業の価値連鎖を結合する仕組みの弱さゆえ、そのポテンシャルが活かされていない状況。
- 農林漁業者と他産業との新たな連携を構築し、生産・加工・販売・観光等が一体化したアグリビジネスの展開や、先端技術を活用した新産業の育成、再生可能エネルギーの導入等により、農山漁村にイノベーションを起こし、農林漁業を成長産業化する必要。これにより、日本を元気にする。

